

アンカー留太郎推進協議会とは



工法開発の沿革

2012年の年の瀬の12月、中央自動車道「笹子トンネル」で天井板の落下事故により、9名の尊き命が失われました。

あと施工アンカーボルトの抜け落ちが原因でした。

あと施工アンカーはコンクリート躯体に種々の付帯設備を取り付ける重要な接合工法として、多くのシステムが開発・改良されてきました。事故以降、天井板の取り付けに使われた接着系アンカーの性能に関する調査・研究が行われています。

青木あすなる建設株式会社と遠州スプリング有限会社は、昭栄薬品株式会社の建材事業部門、アンカーの施工に長年携わってきた(有)新日本工販の協力を得て、「アンカー留太郎工法」を開発しました。

「アンカー留太郎工法」は特殊形状のスプリングを用いることで、接着系あと施工アンカー工法の施工品質と施工効率の向上を図る工法となります。

アンカー留太郎推進協議会

アンカー留太郎推進協議会は、「アンカー留太郎」を用いたアンカー留太郎工法を推進し、接着系あと施工アンカー工法の「施工品質」と「施工効率」の向上に寄与することを目指しています。

会社名（順不同）

青木あすなる建設株式会社

遠州スプリング有限会社

昭栄薬品株式会社

有限会社新日本工販

吉光鋼管株式会社

株式会社ネオシスエイワ
